チュプ

生活クラブ北海道 機関誌
チュプとはアイヌ語で太陽、月の意味
No.500
2024 9 月号

拡がれ！組合員活動

生活クラブの活動は組合員が生み出しています。本部委員会や支部とともに、組合員が生活クラブを作ってきました。その姿を伝え続けてきた『チュプ』は今号で 500 号！ 時代にあわせて変化し続ける活動と生活クラブの考え方を、これからも楽しくわかりやすく誌面にしていきます。 〈広報委員会〉

INDEX

組合員のお店紹介 …… 3
cafe OK ／パンとワインの店 PAN VINO
『チュプ』創刊500号記念 広報委員会担当理事 座談会 …… 4～5
これまでも これからも 生活クラブを伝えたい
2024 ヒロシマ・ナガサキ平和行動 …… 6～7
ナガサキを最後の被爆地に

生活クラブ Wind

組織活動

9～10月は紹介キャンペーンです。生活クラブの共同購入は、顔の見える関係から広がってきました。家族や友だちに「生活クラブの共同購入を知ってもらいたい」「消費材を使ってみてほしい」といった想いが、生活クラブを広げてきた一番大きな力です。

チュプ500号には、おおぜいの組合員が登場し、これからも生活クラブを続けていこうという想いが溢れています。ぜひ、友人や知人に生活クラブを知ってもらうきっかけとして紹介キャンペーンを利用してください。

消費委員会

10月の米登録に向けて、各支部ではさまざまな活動を組み立てています。米登録は「これからの1年で、これだけの米を食べたいです」と、生産者であるとんぼの会と約束することです。

生産者は、日々気温や日照時間などの情報やこれまでの経験などを踏まえ、私たちのお米を作ってくれています。今、一般市場では米不足が話題になっていますが、米登録している組合員には優先的に届きます。10月にはぜひ登録して、生活クラブ米を食べていきましょう。

石けん運動委員会

川のきれいさは、棲んでいる生き物でわかります。8月に星置川で開催した「親子で水環境を学ぶせせらぎスクール」には、6家族16人の参加がありました。ハナカジカ、エビやカニ、石の裏にはトンボの幼虫などが隠れていて、1時間で10種以上の生き物を発見。講師の㈱野生生物総合研究所の酒井健司先生の話では「星置川は、ややきれいな水」とのことでした。

家庭排水に含まれる有害物質の6割は、分解性の低い合成洗剤の成分です。比べて石けんは短時間で生分解され、微生物や魚のエサになります。人にも自然にもやさしい石けんを利用していきましょう。

サステイナブル委員会

Rびんの回収率が下がっています。委員会では「Rびん返してね！」のシールを500mびんに貼り、使い終わったら返すことを知らせています。繰り返し使えるRびんは大切な資源であり、ごみを減らすことができるものです。資源の循環を支えるには、継続した利用と返却がかかせません。

生活クラブでは、グリーンシステムを通してリユースの大切さを伝えています。Rびんを繰り返し使うことでCO_2の排出量も削減されます。地球沸騰化を抑えるために、できることから始めましょう。

組織（8月度）

組合員数	12,213 名	
	加入 36 名	脱退 67 名

共同購入（9月度）

利用高	2億1,769万4,889円
	1世帯当たり 17,825円

グリーンシステム（8月度）

Rびん	回収	17,136 本
	回収率	79.2 %
紙パック	売却金	6,570 円
	回収率	67.9 %
ピッキング袋	回収率	20.8 %

福祉基金（8月度）

賛同者数 2,971 名 賛同率 23.0 %

エッコロ（8月度）

加入者数	3,910 名	
	加入 10 名	脱退 11 名

生活クラブ共済 ハグくみ（7月度）

加入件数 1,403 件

CO・OP 共済（7月度）

保有件数	たすけあい	3,715 件
	あいぷらす	1,873 件

電気の共同購入（6月）

〈供給契約者数〉 776 名

〈電源構成比 速報値〉

6月は約10割の電力を再生可能エネルギー発電所からお届けしています。

8月の理事会から

- 第十三次中期5年計画に基づき、主要品目（牛乳・米・豚肉・鶏卵）の予約制度の構築に向けて検討を開始しました。
- 消費委員会で新たに牛乳チラシが作成され、その利用について報告がありました。
- 2026年度以降の保養活動について、北海道単協の方向性を確認しました。
- 居場所プロジェクトがスタートし、メンバーは8人になりました。プロジェクトの目的とこれまでの経緯を共有し意見交換したと、福祉担当理事会より報告がありました。
- わくわくまつりの進捗状況とポスター等の報告がありました
- 連合理事会「庄内豪雨復興支援カンパ」に、北海道単協として11月に取り組むことを確認しました。

cafe OK（オーケー）

一人でも、家族や友人と一緒でも、ゆったり過ごせるお店。
庭で採れたベリー類を使ったスイーツも人気

三角の屋根と緑のドアが目印の可愛らしい外観

小さい頃からお菓子や料理を作るのが好きでお店を持つのが夢だった、オーナーの岡田麻衣さん。食品メーカーでの勤務経験から、添加物等が入った市販品を使わずに安心して食べられる食事を提供したいと考えるようになったそうです。次男の小学校入学を機に家を建てることになり、長年の夢だったカフェを３年前、自宅の１階にオープンしました。

店内は明るい陽の光が差し込み、温かく落ち着ける雰囲気。店の前には幼稚園と公園があり、楽しそうに遊んでいる子どもの声が時折聞こえます。子どもが学校へ行っている時間におしゃべりを楽しむママたちや近所の人など、平日の来店者が多いそうです。また、「くらぶラボ」をお店で開催したことがきっかけで、班会やランチに訪れる組合員も増えました。「調味料や小麦粉、ジュース類などに消費材を使っています。お客様からは優しい味でホッとするという感想をもらいます」と岡田さん。自家製ベーコンや、すし酢を使ったピクルス、モチモチ食感のフォカッチャなど、丁寧に作られた料理はどれも絶品！ お腹も心も満たされました。（取材／敦賀）

おすすめの「野菜たっぷりプレートランチ」。手作りドレッシング付きのサラダや惣菜のプレートに、スープと自家製パンまたは十六穀ごはんのセット

札幌市北区屯田３条３丁目８－10
☎ 080 － 9615 － 6658

消費材はやっぱり美味しい
組合員のお店紹介

組合員のお店へ取材に行き、オーナーの食に対するこだわりやお店を始めたきっかけなどについてお聞きしました。お二人の魅力的な人柄あふれる素敵な店舗でした。

自宅リビングを改装した店内。少人数での貸切りパーティーや、営業時間外のスペースレンタルも可

パンとワインの店　PAN VINO（ぱんびーの）

静かな住宅街にあるベーカリーカフェ。店内や外のテラスで、ランチやワインも楽しめます。
生活クラブの石けんを購入できる「ラクーン」も併設しています。

オーナーの坂本静さんと生活クラブとの出会いは、道内をあちこち転勤するなか、知り合いに消費材の芋けんぴをもらったこと。身体にいいものはやっぱり美味しいと、25 年前、岩見沢に居を構えると同時に加入しました。同じ頃、ワインやパン作りを学び始め、パンをあげた友人からの評判や家族のあと押しもあり、お店を開きました。「和裁士だった母の背中を見て育ったせいか、何でもできる人になりたかったんです」と坂本さん。

お店のコンセプトである「ワインに合うパン」はもちろん、お酒を飲まない方やお子さんにも喜ばれる菓子パンや食事系のパンも多く、どれも卵・牛乳・調味料などの消費材や道産小麦、地場の野菜が使われています。

労を惜しまず手間ひまかけて作られたパンやお菓子から、坂本さんの性格がうかがえました。また、空知産のワインを多く取り扱う姿勢から、地域への思いも感じます。最近は、ボードゲームを置くなど新たな試みも始めたそう。「誰もが気軽に立ち寄れる場所にしたい」と、今後の夢も語ってくれました。（取材／五十嵐）

焼き菓子やケーキも香料などの添加物は使わず、道産蜂蜜やなたね油を使用

岩見沢市上幌向北１条６丁目 770 － 40
☎ 080 － 5584 － 8923

『チュプ』創刊 500 号記念　広報委員会担当理事 座談会

これまでも これからも 生活クラブを伝えたい

広報委員会は、広報委員と理事・職員・編集ワーカーズで構成されています。たくさんの人が携わり作られてきた『チュプ』。これまでの担当理事から３人を招き、話を聞きました。

8/13 生活クラブ本部会議室

生活クラブの歴史を映し出す機関誌『チュプ』

岩野　それぞれが担当していた時期の生活クラブの状況を、社会情勢とともに振り返ってみたいと思います。

岩成　私が担当していた2000年代は、活動が大きく広がっていった時期です。01年に「デイサービスセンター デイこたけ」が開所。生活クラブ北海道が創立20周年を迎えた02年の「20歳の生活クラブ総点検」では、組合員討議で運営やシステムの見直しを進め、03年には福祉基金の創設や戸別配送が全支部に展開するなど、いろいろなことがスタートしました。

社会的にも介護保険制度の開始や、私たちが反対運動を続けていた泊原発３号機が着工するなど激動の時代でした。

髙橋　生活クラブが福祉に取り組むことについては、一斉班会や討論集会をおこなって、組合員みんなで考えましたね。

岩野　私が担当していた09年に、農産物の取り組みを全支部で行えるようになりました。また、シャボン玉フォーラムを北海道で開催。この頃『チュプ』の誌面デザインを変えるという話が出て、何度も話し合いを重ねました。

三ツ江　2010年度の総代会では、福祉基金の賛同金を毎月70円から100円にする提案が否決され、その後おこなった賛同者集会の様子などを誌面に取り上げました。議事録のように整えられた文章ではなく発言した言葉を載せているので、議論の様子がわかるんですよね。

髙橋　あとから振り返るためにも、残すって大事です。

三ツ江　任期中で一番印象に残っているのは、11年3月の東日本大震災。それまでも原発反対の活動はしていたけれど、より一層議論が巻き起こりました。特に若い人たちが、子どもたちのために何かしなくてはと「エネチェン☆ママたちの会」を結成し、活発に活動していました。取材で福島県へ行ったことも記憶に残っています。

創立30周年の12年に『チュプ』のデザインを変更し、現在の葉っぱをあしらった表紙になりました。

髙橋　委員会や理事会の活動を伝える２ページも、組合員数や共同購入の利用高を表にまとめるなど、わかりやすくなりましたよね。

三ツ江　表紙の写真サイズを大きくするなど、試行錯誤を

篤志家の小竹さんと出会って、生活クラブの福祉が形になりました
岩成 美恵子〈00～07年〉

2001年３月号

震災3年後の福島訪問を特に覚えています
三ツ江 真理子〈10～15年〉

2014年３月号

川瀬 泰宏
生活クラブ北海道
広報委員会担当〈2006年～〉

繰り返していたことを思い出します。私のころまでは、数年で入れ替わりながらも広報委員が数名いて、取材に行ったり原稿を執筆したりしていました。

髙橋　私の任期中は、19年度終わりごろからの新型コロナウイルスの感染拡大。それまで当たり前だった「人に会う」ことができなくなり、生活クラブの活動も制限されました。

川瀬　理事会や委員会の会議、『チュプ』の編集会議もオンラインでおこなっていましたね。

髙橋　とにかく取材に行けないのが致命的で、今月は発行できないのではと思うこともありました。通常は8ページ編成のところ、4ページにして何とか発行したことも。もどかしさもあったけれど仕方がない状況でしたね。この経験から、日常が平穏であってこその私たちの活動なんだ、とあらためて感じました。

1983年4月に創刊。組合員の応募により7月号で『チュプ』と命名

川瀬　コロナ禍での活動について理事会の考えや、安全に消費材を届けるための職員・戸配ワーカーズの取り組みを載せたこともありました。

今できることは何かと模索していたのを思いだします
髙橋 香理〈16～23年〉

髙橋　中期計画に掲げてかねてより念願だった料理教室が15年に実現したり、電力自由化から電気も消費材と位置づけて、16年には「生活クラブでんき」の共同購入が始まったりしました。一人ではできないことでも、方針を立てながら皆で力を出し合い、一つひとつクリアしていくのが、生活クラブの素晴らしいところです。

新聞広告を載せ、みんなで拡大に取り組もうとアピール。提案されたレイアウトに感激！
岩野 美穂〈08～10年／24年～〉

北広島まちづくり構想や豊平での地域福祉づくり。それから、生活クラブ、市民ネットワーク北海道、ワーカーズ・コレクティブの3者で「こんなまちに暮らしたい！」と題して取り組む、予算要望に向けた活動など、多岐にわたる動きを伝えるため誌面でていねいに取り上げました。

『チュプ』を通して活動を知り活かすための誌面づくり

岩野　14年ぶりに理事として戻ってきたら、委員も少なくなり、活動に携わる年齢層も高くなったと感じました。コロナ前の活動を経験していない組合員も多いですよね。

2021年4月号

髙橋　ライフスタイルの変化などから組合員のつながりが希薄になっていた状況で、コロナ禍になりましたからね。今は組合員同士のつながりをつくろうと集まるようになり、その様子をSNSで楽しく発信している支部もありますね。

岩野　活動開始がコロナ流行と重なった「くらぶラボ（くラボ）」も、最近になってようやく定着しつつあります。

2008年11月号

髙橋　写真で活動報告を見せるだけじゃなく、わかって活動するために目的を知らせる役割も、『チュプ』にはありますよね。堅苦しくなく、いろいろな人に登場してもらいながら、楽しんでいる様子とともに伝える。

岩野　堅い内容がいいわけでもないし、砕けすぎても駄目だし。

髙橋　そうそう。「うちの支部と違うやり方だけど、こういうのもいいね」という気づきにもなる。基本として守る部分と臨機応変に変えていい部分との折り合いをつけながら、活動に活かせたらいいですね。

以前、ある人に「チュプは、ただの報告や紹介に留まるだけの機関誌じゃない」と言われたことがあります。答えはひとつじゃないと思うから、読んだ組合員に「これはどういうことなのかな」と考えてもらうツールになればと思います。

岩野　何よりも組合員が『チュプ』を読んで、私も生活クラブの活動をやってみようと思ってくれたらいいですね。

〈取材：敦賀〉

三ツ江　支部によって、くラボの形も様々ですよね。目的や定義をあたらめて誌面で伝えてみたらどうでしょう？

あるでしょう。毎月、取材して原稿を書いて編集して、40年以上発行し続けているのはすごいことだと思います。

ナガサキを最後の被爆地に

一人ひとりが願い、考え、動くことによって平和な社会をつくる。その実践がヒロシマ・ナガサキ平和行動です。1991年から始まりコロナ禍の中断はありましたが今年再開、多くの組合員カンパによって送り出された組合員2人、中高生4人が事務局とともに原爆投下日に合わせ、現地ナガサキに立ちました。戦争の惨禍とそれをもたらした原因にも踏み込み、被害、加害の両面性に気づく旅でもある平和行動は、私たちが平和を作るための大きな力になっています。

同年代との交流 平和活動に触れて

西支部 春日しあ乃（中3）

4年振りの再開となった今年のナガサキ平和行動は、一部スケジュールの変更や予想以上の猛暑もあり不安がつのる3日間でしたが、多くの知識や経験を得ることができました。

特に、「高校生一万人署名活動・高校生平和大使交流会」では、27代平和大使の方々やさまざまな都道府県の高校生が集まり、署名活動や今までおこなってきた活動、これからの活動を報告しあいました。北海道はSNSの利用やコンサートの開催、岩手県は『廃墟と化した鉄の町』の上映、静岡県は手話を用いた歌を制作し障がいのある方にも原爆や戦争、平和の大切さを伝える工夫をするなどです。その県ならではの考え方は、ただ習っただけや聞いたり見たりしただけのことを知ったと思い込んでいた私に、正しい情報を理解してから発信していくという新しい考え方を教えてくれました。発信するにあたり、常に新しい情報に向き合い、少しの疑問をも追及し、発信後も責任を持つなど責務にも力を入れている。並大抵の知識や工夫だけではなく、たくさんの思いと疑問があったからこそ、平和大使が27代目まで受け継がれてきたのではないかと思います。

原爆といえば「広島」という認識がありましたが、長崎を通して学び直せたことのありがたさ、学べることやいつでも冷蔵庫を開けると食べられること、蛇口をひねればあたり前のように水が出る…その「あたり前」に生活できることに感謝できた2泊3日でした。

最後に、生活クラブの組合員の方々に感謝申し上げます。多くのカンパやお気持ちで戦争や原爆、平和だけではなく、今後について考える、人生で一回あるか無いかという貴重な企画に参加させていただき、本当にありがとうございました。

核兵器廃絶と平和の願いを国連に届ける高校生平和大使は全国17都道府県から集まり、活動を報告

平和祈念像前で平和案内人の田川さんと（左から田川恵美子・谷口愛依・中瀬美和・春日しあ乃・谷江柚希・ハルボーセン美智代・高下洋子・小池悠月）

7日：長崎人権平和資料館
　　軍艦島対岸慰霊碑
8日：高校生平和大使の活動報告・交流会
　　フィールドワーク
　　長崎原爆資料館
9日：山里小学校課外授業
　　城山小学校平和祈念館

資料で知った事実と思想教育

厚別支部 谷口 愛依（中1）

私はナガサキ平和行動に参加し、たくさんのことを学びました。長崎に着いた初日に、私は長崎人権平和資料館を見学しました。そこは、元中華料理店を改装した資料館で、民間の方が運営している珍しい資料館だということを聞きました。写真などを通して、日本人が戦時中にアジア諸国でおこなってきたことを学びました。朝鮮人や中国人の捕虜が働く炭鉱での質素な食事、騙されて慰安婦となった若い女性の酷く苦しそうな表情の写真などがあり、私はそれらを見て言葉を失いました。なかでも一番印象に残ったのは、当時の日本の子ども用雑誌の付録で、日本軍が占領した国の場所に国旗を貼るというものでした。当時その子どもたちは「日本軍は凄い、かっこいい」と思ってシールを貼り進めていたそうです。小さな子ども達にまで国の思想が植え付けられていることにとても驚き、それと同時に恐怖を覚えました。

この資料館に展示されていた資料を通して、やはり「戦争をしてはいけない」ということを再認識しました。皆さまのカンパで長崎に行き、貴重な経験をさせていただいたことを心から感謝いたします。ありがとうございました。

アジア諸国での日本軍の加害について説明する新海智広理事

平和の大切さを伝えていきたい

厚別支部 高下 洋子

山里小学校へ平和授業の見学に行く途中、制服を着た小中学生とすれ違ったので「今日は学校へ行く日なの？」と聞くと、「あの日だから行くんだ」との答え。旧城山国民宿舎（現 城山小学校内）では「少年平和像」に被っていた帽子を脱いでぺこっとおじぎをする小学生を見ました。前日、高校生平和大使の活動報告・交流会に参加したときに、北海道ではあまり平和教育がされていないのではと感じていたので、平和授業の大切さを実感しました。

どちらの小学校にも平和祈念館が併設されています。なかでも城山小学校平和祈念館の一角にあった振袖の少女の原画『悲しき別れ―荼毘（だび）』が心に残りました。被爆から43年後、この絵に描かれた少女たちの身元がわかり、娘の地蔵を作りたいという母の願いが現地の高校生はじめ多くの人々を動かして、今は長崎原爆資料館の屋上に飾られています。「像を作って終わるのではなく、そこから世界へ、平和を考える輪を広げたい」関わった人の思いだそうです。

同じ子を持つ親として胸が詰まる思いでこの絵を見ているときに、原爆が投下された時刻、11時2分のサイレンが。平和式典が行われている方向に向かい、黙とうを捧げました。戦争は絶対にいけないことです。

『悲しき別れ－荼毘』。原爆の犠牲となり、だびに付される2人の少女が、晴れ着姿で薄化粧を施され、並んで寝かされている様子が描かれています

生活クラブの「自主運営・自主管理」の考え方は、誰もが人間らしく生きる社会に変えていく力になります。27回目となる私たちの平和行動も、土台となる平和な社会を自らが作るための行動として考え、組み立ててきました。今、ナガサキから学びたいのは原爆の壮絶な被害、圧倒的な非人道性だけでなく、同じ過ちを二度と繰り返さないために何が必要かを、市民自らがさまざまな形で模索している姿、次の世代に継承していくための取り組みです。

来年は戦後80年、ヒロシマから学びます。これからも平和行動を組合員みんなでつなげていきましょう。10月14日（月・祝）、みなさんのカンパで現地に送り出した8人による報告集会を開催予定です。ぜひ来てください。報告集も作成中です。

（文化委員会担当理事　小松 真理）

information

発行　生活クラブ生活協同組合　札幌市厚別区大谷地東1丁目4−15　TEL011(887)8891　FAX011(887)7229
発行日　2024年9月20日　編集　広報委員会／W・COプランズEPO

生活クラブでんき

地域資源をエネルギーへ

阿寒マイクログリッド見学

釧路支部の組合員6人で、2023年5月から電気の供給が開始されたバイオガス発電の生産者㈱阿寒マイクログリッドを訪れました。

牛1,200頭分のふん尿を発酵させてできたガスを使い、電気を作り出します。ガス発電機は3つあり、うち2つが生活クラブでんきに売電されます。非常時には地域の民家や施設のバックアップ電源になります。ふん尿を集めるラインは人手がかからないようになっていますが、箒（ほうき）などの異物が混入して異常を知らせるブザーが鳴ることも。災害時の停電での運用についてや、発電後の産物が肥料などに再利用されることなどを聞き、地域共生の取り組みに期待できると感じました。電気も消費材。再生可能エネルギー中心の生活クラブでんきを選んで利用していきましょう。

釧路支部担当理事　福井 美知代

チュプのバックナンバー（2011.1～）は、ホームページからどうぞ♪

本ページに記載しているイベント等については、生活クラブニュースを見て、参加申し込みをしてください。

問合せ 生活クラブ本部　TEL 011(887)8891

https://www.hokkaido-seikatsuclub.coop/

薄野遊郭の誕生 ～北海道開拓を支えた名もなき女性たち～

日　時　10月8日（火）　10：30～12：30

場　所　新善光寺（札幌市中央区南6西1）

定　員　各50人（参加費1,000円）

内　容　明治開拓時代、出稼ぎ労働者をつなぎとめるため、国は薄野に遊郭を設置。貧しい農村・漁村からたくさんの女性が連れてこられました。歴史を学んで、今も続く女性や若者の貧困問題を考えてみませんか。講師は民衆史研究家の石川圭子さん。

ニュース 9月1週

主催　文化委員会

～友人・知人に生活クラブの良さを知ってもらう～

消費材を使った拡大試食会

日　時　11月5日（火）　第1部 / 10：30～12：00
第2部 / 13：30～15：00

場　所　京王プラザホテル札幌（札幌市北区北5西7）

内　容　ホテルのシェフが消費材を使った料理を提供♪ 共生会メンバー（生産者）からは消費材のこだわりや美味しさのヒミツなどを聞くことができます。生活クラブを知ってもらいたい友人・知人を誘って、ぜひ参加ください。組合員のみの参加不可。託児無料。

ニュース 10月1週

共催　生活クラブ・共生会

10月20日(日)は、わくわくまつり！

グランドメルキュール札幌大通公園 / 11：00～14:30

番外編 つむじ風 エッセイ

桃栗三年柿八年、チュプは○年？

広報委員会担当職員　川瀬　泰宏

どんなものでも実を結ぶまでに相応の時間がかかるものだ。チュプは9月号で500号だ。時間で言うと41年間ちょっと。私が入協したのが38年前だからその3年前に創刊号が発行された…私が広報委員会を担当して早18年。取材した原稿を喧々諤々（けんけんがくがく）、夜遅くまで続く編集会議…今思えば懐かしささえ感じる。チュプは時世の流れに対応し、少しずつ変化してるが、譲れない一線がある…

機関誌『チュプ』は組合員活動を写す鏡だと思う。生活クラブは組合員が出資し、消費材を利用して、自分たちで運営している団体。そう、譲れない一線は組合員主権の下、自主運営・自主管理している組織体だからチュプは組合員が発する言葉であること。でもチュプが実を結ぶ時っていつだろう？

生活クラブ運動で…
人が変われば空気が変わる
空気が変われば集団が変わる
集団が変われば社会が変わる
社会が変わればチュプが変わる

運動が帰結した時に今までのチュプはいったん実を結ぶ。でも、それは新たな一歩を踏み出した瞬間でもある。

楽しみだね　チュプ

通常、組合員のエッセイコーナーですが、500号記念の本誌ではチュプ作成に携わっている職員のエッセイを掲載します。

道産間伐材使用　道産間伐材を配合した紙を使用しています